

滝の湯の由来

《 滝 》

今から約四百年ほどの昔、元亀年間、長沼村に又七という狩人がいた。又七は毎日山野を歩き、獲物をとってきては生計を立てていた。

秋もおしつまつたある日、又七は滝村の川沿いを歩いていると、滝つぼがあり、そのそばに沢山の動物が集まっていた。

又七は弓矢で射たところ、獲物は逃げ、その場から湯けむりが立っているのが見られた。

しばらく見てみると、湯天様が真白な姿で現れて、「これは万病に効く湯であるから大切にしろ」という御告げをして消えてしまった。又七は、動物たちはこの湯の中で傷を治していたのだろうと考えた。

又七は、湯天様の御告げ通りに獵師をやめて、大滝のそばに小屋を造り湯屋を始めた。

湯屋は、傷はもちろん、万病に効く滝の湯を伝え聞いた近郷近在からの多くの湯治客でにぎわった。その後、滝の湯は村人たちが交代で営むようになったが、天保年間、村役鈴木勝吉という者の手に渡った。

会津から来たある旅人の話では、その昔、会津の領主



滝の湯